



第137号

平成28年10月1日発行
発行所
長崎大学玉園同窓会
〒850-0029
長崎市八百屋町36番地
☎095-824-5494
発行人
山崎 滋 夫
(株)昭和堂

学生のところ



玉園同窓会理事 西平 千治

右足を少し前に出し、頭部は斜め左下を向き、後ろに両手を握り、自然体の流れるようなポーズの気品ある青年像である。

当時、「若人」を初めて見たときの深い感動は、今でも鮮明に記憶に残っている。

我々の学舎である美術科棟は、中部講堂の右後方にあり、木造プレハブの2階建てであった。

在学中は、毎日ここで絵を描いた。授業として絵が描けることにいたく感懐し、自分が納得する絵を描くことが、生活の全てといっても過言ではない毎日であった。

先輩、後輩の区別なくお互い競い合っ、絵を描いた。当時の県展洋画部門では、上位入賞

者はほとんど長大美術科の学生が占めていた。

描いた絵をもとに、恩師である山中清一郎教授に批評していただく授業は緊張の連続であった。

先生の的確な指摘や助言は、若い私たちに取って新鮮であり、感動を持って納得した。先生の助言から受けた感動が次作への制作意欲の根源となった。先生の数多くの教えのなかでも「絵は感動で描け」と言う教えは、私にとって、今でも制作に取り組む際の、貴重な教訓である。この教えを実感したことをいくつか思い出す。

私は学生時代から今日まで、若い女性をモデルにして人物画を描いてきた。人物画は自分が描きたいと打ち震えるような感動を覚えるモデルでなければ、決して納得する絵は画けるものではない。たまたま、他人が連れてきたモデルと一緒に描かせてもらっても、納得する絵が描けたためしがない。モデルに自分自身が感動しない限り納得する絵は望めない。

ある時、ヌードを描く機会があった。ヌードを描く機会は滅多になく、当日は、早々に画架にキャンバスを固定し、パレットに絵の具を出し揃えて、モデルの登場を待った。

モデルはガウンを羽織って登場する。「始めます」の合図でモデルはガウンをスリりと脱ぐ。その一瞬の感動を見逃してはならない。この一

瞬の感動がその後の制作の全てを左右する。

まさに「絵は感動で描け」、師の教えを実感したものである。

別の日、朝からの急用で、遅れて出席し、一瞬の感動を感受できないことがあった。

仲間はすでに制作途中であり、その後方に画架を立て、描き始めてみたものの、ヌードを描く感動と情熱は淡く、筆はうまく進まなかった。感動のない絵は、実につまらない。感動なくして、納得する絵は描けるものではない。

学生のところの絵は、技術は稚拙であっても、ほとぼしる情熱が画面からあふれている。今見ても学生時代の情熱に我ながら心動かされるものがある。感動の積み重ねで、豊かな感性は身につくもの。感動するしなやかな情感は末永く鋭敏にしておきたいと思う。感動することの多かった学生のところを、懐かしく思う今日このごろである。



情熱で描いた学生時代の作品

主題

危険や災害から子どもを守る教育

子どもたちは、安全・安心な環境のもとで生活しているでしょうか。

交通事故・不審者・火災・地震といった、危険な環境の中で生活してはいないでしょうか。いつ、どんな時に、危険な状況の中に身をさらされてもおかしくないのが、今の子どもたちのように思います。

そういう中、この4月には隣県の熊本で、大地震が発生しました。

思いもよらない自然災害の恐怖におののくと同時に、自然災害から身を守る指導や訓練の必要性を改めて実感しているところです。

本県においても、25年前、忘れてはならない「雲仙普賢岳噴火」そして「雲仙普賢岳火砕流」の痛ましい自然災害に見舞われました。痛ましい災害の現状は、月日が経っても今なお生々しい爪痕を残しています。そして被災された多くの人々の暮らしも、今なお困難を強いられている状態です。

関係学校では、痛ましい災害を風化させてはならないと、今なお振り返りの教育に努めています。

各学校においても、日々の教育活動の中で、交通事故から身を守る備え、不審者から身を守る備え、火災から身を守る備え、そして地震から身を守る備えなど、危険や災害から身を守る指導・訓練に取り組んでいるところです。

そこで本会報においても、標記主題を掲げ、交通事故・不審者・火災・自然災害等から、子どもたちの生命や身体を守る方策はどうあればよいか、研修の場にしたとを考えました。

各学校におかれましては、発表していただいた学校の取り組みを参考にされ、自校の取り組みをさらによりよいものに深め、危機管理のあり方について研修を深めていただければと考えます。

普賢岳を仰いで



南島原市立深江小学校校長 山田芳弘

毎朝、本校に集団登校して来る子どもたちは、校門を通ると、横一列に並び、元気な挨拶の声とともに深々と頭を下げる。その前方には校舎があり、さらにその上には、雄大な雲仙普賢岳が穏やかな顔をのぞかせている。

今年も6月3日の夕刻には、雲仙災害記念館前の広場で、子どもたちが作った数多くのロウソクに「祈りの灯」が灯された。大規模な火砕流で亡くなった方々を追悼するこの行事も今年で25周年を迎えた。25年前の本校は、6月19日に終業式もしないまま夏休みに入った。隣の小林小学校のグラウンドにプレハブの仮設校舎が設置され、校区が警戒解除となる10月末まで学校そのものが避難

をしていた。この間も、その後も、多くの救援物資や義援金、激励の手紙を全国からいただいたという。その善意は今もなお本校を支えている。

今年、4月14日、午後9時を過ぎたころ、私はPTAの評議員会を終え、数名の先生方と職員室にいた。

そのとき、突然、激しい揺れが襲ってきた。職員室の中央付近にいた先生は机の下に入り込み、私は壁際のキャビネットに掴まった。しばらくの間、声も出せなかったが、揺れが取まると同時に、何人かの先生は携帯電話で家族に連絡を試みた。だが、「繋がらない……。」という叫びがちこちで漏れていた。私の携帯が鳴ったので、取ると、妻からではなく、遠い長野県にいる娘からだった。

「鳥原半島で震度5弱」という状況は、その後のニュース番組で知った。熊本は震度7を超えたいが、後に、これが翌朝に襲ってくる本震の前震だったことを知る。翌日の土曜の朝、職員室に入ると、特に被害

は無かったものの、盗難に遭った直後のごとく、ほとんどのスチールデスクの引き出しが飛び出していた。本校の子どもたちの家庭にも特に被害は無かったが、希望溢れる新年度は、スタート早々、重苦しい空気に包まれていた。

その次の週に、年間計画では5月に予定していた地震の避難訓練を前倒しで実施。本校には他にも2つの分校があるが、両分校においても本校に合わせるように避難訓練をした。その後、春の運動会の練習のために本校登校をする日に、もう一度、一斉

に避難訓練を実施した。分校の子どもたちは、年間に数十日、本校で学校生活を送るが、不慣れな本校にいるときこそ、訓練が必要なのである。5月に入っても熊本では群発する地震が収まらず、時折、島原半島も揺れた。そのたびに普賢岳の溶岩ドームを覗む。そして、胸を撫で下ろす。災害の記憶は常に私たちの風景の中にあるのだ。

今日も登校してきた子どもたちが、校舎に、お山に、深々と頭を下げる。このルーティンだけは、変えてはならない。

安全学習と安全指導

松浦市立今福小学校校長 田島豊広



子供同士のいたずらや暴力行為、登下校中における交通事故や声かけ事案など、さまざまな事態が起こりうる危険性があります。

そういう危険と背中合わせの教育活動を通じて、子どもたちは新しい知識・技能を習得し、心身の発達を

学校の教育活動は、一定の危険を前提に行われています。理科の実験中にやけどをしたり、あるいは、

選んでいます。私たち教員は、こうした教育活動の特質を認識した上

で、危険性と背中合わせの教育活動に子どもたちをいかに安全に取り組ませるか、ここが安全で安心な学校づくりのポイントになると考えます。

防犯教育・防災教育・交通安全教育等の安全教育については、学習および訓練の機会を十分に確保し、「命を大切に守る」、「自分の命は自分で守る」という観点を基本に置いて、発達段階に応じて体験型学習など、心に働きかけるような教育手法を工夫し、危険予測・回避能力を育んでいかなければなりません。本校では、危険についての「知的理解や技能」を育む安全学習と、危機回避の「実践的態度や行動形成」を身につけさせる安全指導をバランスよく統合させることに重点をおいて取り組んでいます。しかし、学校だけの取り組みには限界があります。そこで、松浦警察署や松浦市消防本部など関係機関のご支援・ご協力を得ながら行った学校安全の取り組みについて紹介します。

①交通安全教室

衝突・巻き込み・死角実験など実際の危険の疑似体験を交えた教室を開催することで、子どもたちは、事故の身近さや恐ろしさを体感し、身



交通安全教室

を守る歩き方や正しい自転車乗り方を身に付けようという気持ち

②火災時の「煙体験」

火事の時、自分の身を守るためには、煙の危険についてもきちんとしておく必要があります。今回は、松浦市消防本部の方々のご協力のもと、煙が充満した火災発生時の部屋を再現し、煙からの避難方法を学習しました。

子どもたちは、避難訓練と同様に、煙を吸わないよう、体を低くして、ハンカチで口と鼻をふさぎながら避難します。しかし、煙で前が見えませんが、先の見えない中で動くことの怖さを感じながら、真剣に訓練することができました。

③地震体験

いつ起こっても不思議でないと言われている大地震。ふだんからの心構えの対策として、みんなで防災意識・災害に対する意識の向上を図れるよう、起震車に乗って大地震の揺



火災時の「煙体験」

れを体験しました。

地震が発生すると、校内放送で子どもは机の下に体を隠すよう指示をします。震度6の揺れの中で、その行動がとれるかどうか体験させました。揺れない中で机の下に体を隠すのはかなり違います。そして、この大きな机でも震度6の揺れではひっくり返りそうになることを子ども

もたちは気づきません。軽い教室の机ではいったいどうなるのか……。この揺れを体感し、実際に地震があった時にどのような対処したらいいかを考えるきっかけになりました。これからも地域とのふれあいを基盤として組織的連携を強化し、地域の力を生かした安全安心の取り組みを進めていきたいと考えています。

子どもを守る教育に思うこと

長崎市立三川中学校校長 森下秀男



学校内だけでも、外部を要因とする事故・事件防止、内部での教育活動から生ずる種々の事故防止と危機管理の範囲は極めて広い。

危機管理については、以前から多くの実践がなされてきた。私の取り組みはそれらを基にした普遍的なものなので、後に御指摘、御指導をいただければ幸いです。

私が特に範としてきたことは、「先憂後楽」、つまり、「平時の備えを万全に」という心構えである。

ここでは、指定された主題「危険・災害」に合わせて、危険な場面を「交通事故・不審者」、災害の場面を「火災、地震等の自然災害」と想定して、これまでに取り組んできたことを述べることにする。

交通事故防止については、やがて運転者となる子どもたちに、意識づけ・習慣づけを図らなければならぬと考える。そのためにも、「思い

がけなく事故に遭う」という私自身が経験した事実を今後も生徒に語っていききたい。

不審者対策については、家を出る前から始まっていることを、子どもたちに具体的に注意喚起する。講話では、「出かけるときは、お家の人に行き先と帰宅する予定の時間を必ず話すこと」を強調して、その言いつけを守って助かった実例を挙げて話している。

年に3回行う避難訓練では、例年、一回目に火災を想定することが多かったが、今年度は先の熊本地震の直後の実施であったため、地震から火災が起きた場面に切り替え、内容を一部追加して訓練を実施した。地震には津波を伴うこともある。そこで、津波を想定し、第一次避難場所を使う場所の事前の了解や、近隣の小学校との合同避難経路の確認、そして経路付近の住民の方々への事前の了解等にも留意した。

梅雨時は、大雨による水害・土砂災害も自分なりに注意していたが、現勤校では、地域の役員の方から勉強の機会をいただいた。

本校区近くは、長崎大水害で川の増水や土砂崩れがあり大変な災害に

遭っていた。地域に配布している「防災マップ」を拡大して持って来られたので、すぐに掲示し紹介した。

どの安全教育にしても、学校だけで完結させることはできない。学校を起点としながらも、保護者・地域と一体となって「危険や災害から子どもを守る教育」を行わなければならない。

今年の夏、校区内の小学校で、地域に開いた防災教室が開催された。本校生徒も参加させていただき、大変勉強になった。煙体験・放水体験・震度7の体験等、子どもたちが実感できるものばかりであった。「具体的に動けば、具体的な答が返ってくる」ことを改めて感じた。

先日、運転免許の更新の際に、視聴した映像の内容は、「もしも交通ルールがなかったら、もしも危険予知の理解がなかったら、もしも体調管理が十分でなかったら」という視点で構成されていた。それは、学校教育目標の徳・知・体を裏返した構造であり、制作者の発想にはっとした。今後も、危機管理を学校教育目標に関連づけ、地域と連携しながら、日常生活の中で、子どもを危険や災害から守る教育を推進したい。

わたしの教育実践

子どもの目線で



新上五島町立青方小学校 原 尚史

教師としての道を歩み始めて、早くも3年目を迎えました。初任校が故郷の上五島であることに加え、子どもたちや同僚にも恵まれ、多くの人々に支えられながら教員生活を送っています。今回、原稿執筆の依頼を機会に、これまでの学習指導と学級経営を振り返ってみました。

私が学習指導を行ううえで、いつも心がけているのは、学習が苦手な子どもへの手立てです。新任のころは、授業の思わぬところで抵抗を感じる子ども姿に困惑したことが多かったのを覚えています。振り返ると、当時は、目線を子どもの高さまで降ろせていなかった自分がいいます。今でも十分な指導ができていないわけ

ではありませんが、一人でも多くの子どもが「学習が楽しい」と思えるように、日々の教材研究に取り組んでいます。自分が講じた手立てによって、子どもの「できた」や「楽しい」が目に見えたときほど嬉しいことはありません。

学級経営では、子どもの自主性の尊重を心がけています。そのために、子どもたちに適切な目標を持って学校生活を送れるようにしています。どんな自分になりたいか、どんな学級にしたいのか、行事をどう頑張りたいのかなど、子どもどうして目標を語り合うなかで、子どもたちが自己有用感や学級集団への所属感を持つことが大切だと感じます。外発的なものばかりではなく、子どもの内面からエネルギーが湧き出るような学級経営を理想に、日々、精進しているところなんです。

こうして実践を振り返ると、少しずつですが着実に成長していると同時に、それに伴って新たな課題に気が付きます。今後も実践と内省を重ね、子どもに寄り添い、ともに成長し続ける。教師の道を歩み続けたいと強く決意

授業力の向上のために



長崎市立小ヶ倉中学校 桐谷 祥平

「教師は授業で勝負をする。」この信念の下、日々研鑽を積みたと思

いながら、教職生活2年が経ちました。学級事務や成績処理、その他諸々の仕事に追われ、授業準備に満足に取り組めないのが、今までの私の現状でした。

かろうじて授業の準備をして、一杯で授業をするものの、実践を振り返る間もなく次の授業へと移る。そんな日々で果たして「いい授業」ができるようになるのかと思悩む日が続いていた去年の11月。

「若手の先生達を集めて勉強をしませんか。」ある先生からそう声をかけていただきました。毎月一度、週末の朝に集まり2時間程度の勉強をする。普段行った授業実践を持ち寄って、「もったいなくしたほうが

い」「こういう考え方はいいね」などの意見を忌憚なく言い合う。とても有意義な2時間を過ごします。そこには、ベテランの先生も数名立ち合って助言をしていただき、平日ではできない授業の振り返りを十分にすることができました。

「教員は常に勉強をしなければいけない。」そんな言葉をあちこちで耳にします。しかし、職員室でベテランの先生方を見ると、多種多様な業務に忙殺され、授業準備にじっくり取り組むことは難しいと思われる現状もあります。「若手」だと言われ、余裕も時間もある今だからこそ、授業の基礎をしっかりと身につけていきたいと思えます。

授業ができたかできていないかは、教師の満足によるものではなく、受けている生徒に力がつき、いかに育ったかというところだと思います。生徒主体で考えることが授業の大きな鍵になることを念頭において、これからも日々精進していきたいと思えます。

わたしの学校

友愛剛健の学校

長崎市立桜が丘小学校

6年 川口マリア

私の学校は、平成生まれの新しい学校です。全校児童約400名ほどで、春になると満開の桜で入学式をむかえます。

この桜が丘小学校は、「友愛剛健」のもと、「優しさいっぱい、元気いっぱい、やる気いっぱい」の合い言葉で毎日の生活を取り組んでいます。

優しさいっぱいとは、だれにでも優しく接することです。みんなこままっている人がいたら進んで声をかけることができます。

元気いっぱいとは、ワンストップあいさつです。「〇〇先生おはようございます。」とワンストップして、あいさつをすることができます。

やる気いっぱいとは、桜ふぶき大作戦です。毎朝、6年生が25分間晴れの日は外、雨の日は室内でそうじをしています。

そのほかにも6年生は室内ゲーム

大会などをして、ほかの学年に遊んでもらい、よろこんでもらっています。

これからも学校のリーダーとして、みんなが喜ぶことをして、桜が丘小学校がよりよい学校になるようがんばりたいです。

私のすてきな小学校

巻岐市立勝本小学校

5年 篠崎 心美

私の学校は、巻岐市の勝本町にある勝本小学校です。創立141年の歴史ある小学校です。全校児童は、121名と少ないですが、たくさんいいところがあります。

一つ目は、みんなが優しいことです。誰かが困っていると、助けあげます。けんかをして、すぐに自分から謝ります。だから、いじめも起こりません。

二つ目は、みんな朝早くからマラソンをすることです。このことを「朝マラソン」といいます。20分

間、自分の力で走り切ります。運動場を5周以上走ったり、リレーをしたりして体力をつけています。

三つ目は、みんながいつも元気なことです。昼休みには、いつも元気な声が響いています。学年に関係なく、みんなが仲良く遊んでいます。

雨が降っても、工夫して楽しく遊んでいます。私は、このことが一番のいいところだと思います。

私は、こんなすてきな勝本小学校をこれからも守っていききたいです。

来年は6年生になるので、最高学年として、みんなを引っ張っていきたいです。そして、たくさんいいところがあるこの勝本小学校をこれからも大切にしていきたいです。

心力と学力を目指して

佐々町立石小学校

6年 山下鈴々奈

私の通う石小小学校では、学級や全校のみんなを取り組んでいることがたくさんあります。その中のいくつかを紹介いたします。

一つ目は、あいさつ運動です。石小では「だれにでも、先に、笑顔で、元気よく、ワンストップ」をモッ

トーにあいさつをがんばっています。私は、先生や学級の人だけでなく、全校の人、地域の方などにも「あなたに会えてよかった」と伝わるようにあいさつをしたいと思って取り組んでいます。

二つ目は、校長先生が出してくださる「チャレンジ問題」です。授業で習ったことを生かして、考える問題が出されます。毎日たくさんさんの解題が、校長室の前の箱に出されています。授業でやる問題よりもレベルアップしているので、自分でじっくり考えなければなりません。分けた時はとてもうれしいです。分からない時は友達と一緒に考えたり、教え合ったりしています。全問クリアをめざしてがんばっています。

三つ目は、たてわり活動です。学年に関係なく遊んだり、平和集会用の折り鶴をお互いに教え合いながら折ったりしました。他にも1年生の給食配せんを手伝ったりして交流もしています。これらの活動を通して校長先生がいつもおっしゃっている「心力と学力」が向上していると思います。



母校だより

日弁公 題

次期学習指導要領の改訂をにらんで

長崎大学教育学部長 藤木 卓



平成二十八年度がスタートいたしました。教育学部・大学院教育学研究科へ平成二十八年四月一日付でご着任された先生方を、お知らせいたします。なお、敬称は略させていただきます。

【ご着任】

杉野本勇氣（数学専攻）、鎌田英一郎（技術専攻）、宮津寿美香（家庭専攻）、畑中大路（教育経営学）、脇信明（幼稚園教育）、篠崎信彦（実務家教員）、北浦剛資（実務家教員）、本多博（実務家教員）、大町美紀（附属幼稚園長）、佐藤凡人（附属特別支援学校長）

以上のご着任された先生方ともども、

今年度も努力する所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

ところで、学習指導要領（以下、指導要領）の改訂に向けた作業が進行しています。ご承知のように、指導要領の改訂は、概ね十年毎に行われていきます。今回の改訂は、平成二十六年十一月に行われた中央教育審議会への諮問「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」がスタートとなっており、それを受けて同審議会初等中等教育分科会教育課程部会の中に設置された教育課程企画特別部会を中心に、作業が進行しています。そして、平成二十七年八月に教育課程企画特別部会における論点整理が報告され、新しい時代と社会に開かれた教育課程を意図して、これからの社会と子どもたちの未来や、育成すべき資質・能力、アクティブ・ラーニング、カリキュラム・マネジメント、そして各学校段階や各教科等における改訂の具体的な方向性が示されました。この論点整理が見据える2030年は、現在改訂作業中の指導要領が実施され、さらにその次の指導要領改訂が行われるまでの十五年後の社会です。少子高齢化の中で、

グローバル化や多様化が進むとともに、人工知能が更なる進化を遂げているかもしれない社会や、予測が困難で複雑に目まぐるしく変化する社会においても、日本人としてのアイデンティティを持ちつつも、地球規模的な視野で逞しく生きて行ける未来人の教育がイメージされているように思います。

はや、たくさん知っていることだけに、大きなアドバンテージは無いのです。逆に、適切に情報端末の活用ができないことによる格差（デジタル・デバイド）が生じてしまいます。

キーワードの一つであるアクティブ・ラーニングは、「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称」（中教審答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」平成二十四年八月二十八日用語集より）と定義されており、「深い学び」、「対話的な学び」、「主体的な学び」の三つの視点がポイントとされています。アクティブ・ラーニングの導入により、これからの教育においては、獲得した知識の量だけを見てその成果を考えるのではなく、獲得した知識と既存の知識をフルに活用し、新たな課題の解決を図る力を養うことを成果と考えることになるのだと思います。この知識の活用に関する捉え方の転換が意味するところには、大きなものがあります。その背景にあるのは、情報化やグローバル化でしょう。今や、情報通信ネットワーク上には大量の情報が存在し、タブレット端末やスマートフォン等を用いて、いつでも誰でも取り出して使うことができます。も

そもそもアクティブ・ラーニングは、十年ほど前から大学等の高等教育において教育改革の手法として取り組み始められた教育方法であり、特に目新しいものではありません。しかし、それが、指導要領に規定され、全国の小・中・高校等において実践されるようになることが驚きです。教員の養成を主目的とする本学部・研究科においても、当然、それに対応することが求められます。今後、本学部・研究科の中でも、教員を目指す学部学生や、現職教員院生あるいは学部卒業院生の資質・能力向上のための教育方法等の改善に取り組む必要があると考えています。

なお、平成二十八年八月には、教育課程企画特別部会から審議のまとめ（素案）が出されました。平成二十八年度中を目標に、答申がまとめられるようです。

このような、大きな時代の変化を思わせられる指導要領の改訂ですが、本学部・研究科は、それをにらんで適切に対応して参ります。さらなるご支援のほど、どうぞ、よろしくお願いいたします。

動いてくまも同窓会

平成28年度 図書購入費助成校

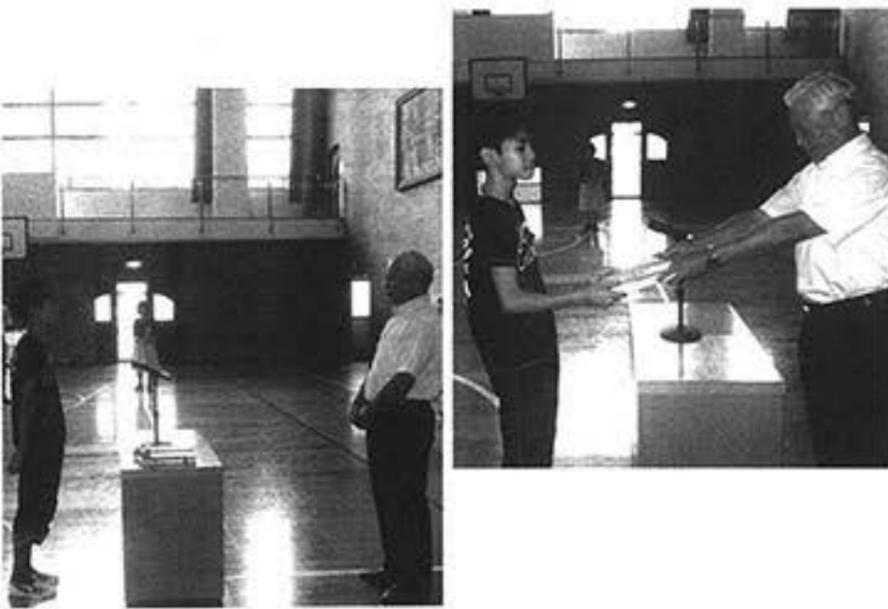
平成28年度は、左記の学校に助成
を行いました。

・小学校の部

長崎市立飽浦小学校・佐世保市

図書贈呈式

9月1日、長崎市立飽浦小学校に
おいて、贈呈式を行いました。

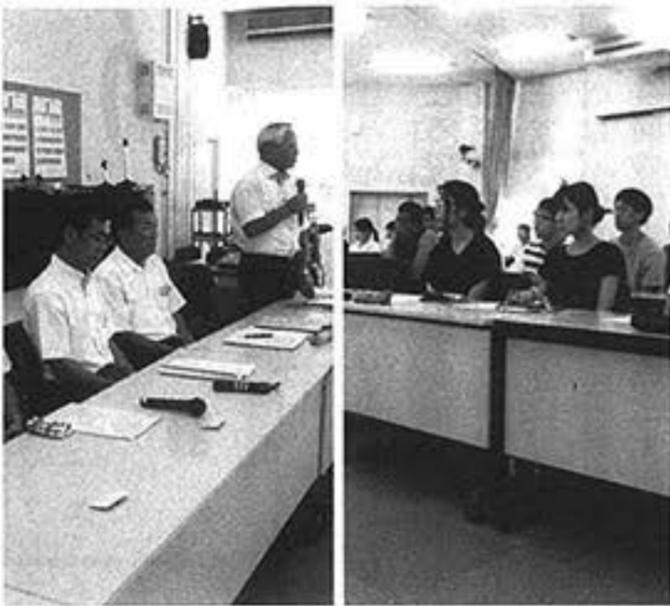


立花高小学校・諫早市立有喜小学校
・中学校の部
大村市立桜が原中学校
・高校の部
九州文化学園高等学校

就職支援事業

本年度も、28年度の教育学部の学
生(特別会員)に対する就職支援事
業を実施しました。

8月2日から25日まで、1次合格
者を対象とした支援活動を実施しま
した。開講した17日間、約400名の
学生に面接の受け方や小論文の書き
方等について指導助言を行いました。



「長崎大学全学同窓会」開催される 長崎大学ホームカミングデー

2年ぶりに「長崎大学全学同窓
会」(第7回長崎大学ホームカミン
グデー)が、平成28年6月11日(土)、
長崎大学文教キャンパスにおいて開
催されました。

今回は、御案内のとおり、後輩た
ちによる「コーラス」「チアリーダー
ング」「龍踊り」が披露され、その後、
長崎大学名誉教授 相川忠臣氏・日
赤長崎原爆病院院長 朝長万佐男氏に
よる講演がありました。

講演会の後は、希望者による懇親
会で盛り上がりました。
青春時代を謳歌した母校に集い、
旧友との再会を喜び合い、さらに絆
を深めた一日となりました。



教育学部原爆殉難慰霊祭

8月9日、被爆地長崎は、今年も、
71回目の「原爆の日」が巡って来ま
した。

我が長崎大学と玉園同窓会におき
ましても、文教キャンパスにありま
す「長崎大学原爆殉難慰霊碑」の前
で、厳かに原爆殉難慰霊祭を執り行
いました。

初めに、主催者であります教育学
部の藤木卓学部長の挨拶がありまし
た。

続いて、原爆が投下された午前11
時2分、殉難されました方々の御冥
福を祈り御霊に黙祷を捧げました。

次に、参列された同窓会員及び大
学の先生方・職員の方々全員で御焼
香を捧げました。

最後に、同窓生を代表して永嶋寛
延先生から慰霊の言葉が述べられま
した。

殉難者の御冥福と恒久平和への誓
いを新たにし、滞りなく終了するこ
とが出来ました。



幼稚園

今年度附属幼稚園は、職員13名のうち6名(担任5名中3名)が新しいメンバーに入れ替わり、園児128名とともに新しい風を吹かせています。

本園は、今年創立130周年を迎えました。6月1日には、記念行事を行い、園児・保護者・ご来賓の皆様で、色鮮やかな風船を空に飛ばしました。記念品として、遊具が幼稚園に贈られました。

11月12日(土)には、「共感し合いながら友達とかかわり協同して遊ぶ子どもを指して『夢中になる姿を追って』」を研究主題に掲げ、平成28年度幼児教育研究協議会を行います。

皆様のご参加をお待ちしています。

小学校

附属小学校では、昨年度から経営理念「あなたの願いをかなえます」を掲げ、学校経営に取り組んでいます。願いをただの想いに終わらせないように、願いを具体的な目標に変



え、その目標を達成するための必要能力を悪戦苦闘能力【知力、心力、体(耐)力】と位置づけ、様々な教育活動に取り組んでいます。本年度は「非常識と思えるほどの目標」を掲げ、既存の延長線上の発想ではない変革にチャレンジしています。その一つとして国際人としてのコミュニケーション能力を身に付けさせるため、海外の小中学校とのICTを使った日常的な交流などを計画中です。

中学校

今我が国では、本年度末予定の学習指導要領改訂に向けて、育成すべき資質・能力、アクティブ・ラーニングに象徴される授業改善、学習評価の在り方など、様々な議論がなされています。

本校では現在、重視する資質・能力を「主体性」「論理的・批判的思

考力」「メタ認知」の3つに絞り、各教科等の本質も見据えながら、これからの授業づくりの要件を具体的に提案したいと考えています。「長崎附属に行けば、学びと評価の新たな形が見える。」そんな研究を目指しています。

研究発表会は、来年2月9・10日(木・金)に附属小中共同で開催します。玉園同窓会会員の皆様の御参会をお待ちしております。

特別支援学校

本校は、「生きる喜びをつくる」「生きる力を身につける」を教育目標に掲げ、家庭と連携しながら、子どもたちの自立と積極的な社会参加を目指して、日々の教育実践に取り組んでいます。昨年度は、8月に公開セミナーを、2月には「児童生徒の将来につながる自己を育むプロセスを探る」をテーマに公開研究発表を行い、合わせて467名の方に参加していただきました。これからも地域に研究の成果を発信していくとともに、特別支援教育にかかわる研究の実践に取り組んでいこうと思います。

新会員紹介

平成二十七年卒業生

学校教育教員養成課程

初等教育課程

小学校教育コース

田中 智也	溝口あす香	片江 達大
林 南実	笹田 茜	神崎 未悠
新城木乃美	宮島 里美	幸徳 七海
荒平 大介	宗岡 侑里	小中原莉奈
石井 美萌	森 輝美	小柳 公平
井村 萌	安原 知邑	小柳 光弘
江口 美菜	柳川まどか	齊藤 卓斗
川添 優	山口 祐佳	坂本和佳奈
坂口 優太	山口 理穂	竹下伸太郎
砂田 真子	吉川 英里	田添 智美
高橋 由	吉田 美咲	田中 優真
立花 勇治	和田 拓也	長尾 理子
長尾 莉奈	金城恵太郎	中島つくみ
永津 愛生	山田 翔太	野口 浩樹
富永 彩織	前田 真彩	長谷川成美
長尾 一平	有澤由衣子	林田 綾
西口えみ子	石川 葵	平塚 由衣
林 美里	井上 鈴菜	松永 陵
比嘉 愛子	浦元菜津子	武藤 春佳
藤川 未緒	江崎 遥菜	村上 未紗
松本 幸恵	小川 綾亮	森田 愛純
丸橋 雄吾	小川内かれん	山口 いづみ
		山口 歩
		山越 翔陽
		与那覇鈴子
		片上 京香
		住田 正嵩
		津野 幸記
		福田 佳孝
		松尾 雄大
		森 翔太
		井上 朋哉

入江 亮生	喜多岡仁美	柴山萌々子	皆光 俊也	川村 隆弘	楠本麻紀子
加島 成子	久木山弘代	白石 大和	(音楽科)	池本 威	坂口 愛美
川口 美紀	葛島 一誠	田中 天馬	泉 香織	石井 桃子	若杉 宣子
國武 大嗣	工藤 璃王	士岐 頼宣	岩本英里奈	幼稚園教育コース	
佐藤 優大	坂口 明音	中西 基希	川島 美穂	財満かりん	葛島 菜摘
生島 夏希	笹本 未来	福市 真紀	西原みつぎ	佐々木智世	小林 歩実
田出 梓	佐藤 夕葉	(社会科)	山田 奈央	篠原 遥香	佐々木美佑
大力 優樹	佐原 佑衣	市川 哲也	(美術科)	渡久地智子	品川 志穂
田尻 圭佑	洲加本 心	岩川 朋之	奥田 春菜	中村 祐	白石 彩歌
徳永 大地	鈴木 綾	金子 翔平	佐古まりあ	西嶋 萌	田代 沙英
中尾 早紀	関山 大樹	黒川 稔也	久野みなみ	平松 亜美	珠林 穂穂
八幡 駿太	田川明日美	高木 勝海	(保健体育科)	村田 紘奈	永倉 星香
林田 菜緒	竹崎 千紗	西澤 彩子	岩崎 紗知	安永 香織	中野 詩歩
藤谷 紗奈	田中 美佑	松永 理	川村 翔大	横尾 唯	仲村まりな
前田 悟之	田上このみ	村里 徳馬	金城 史幸	荒木 愛	西岡 狭香
益永 佳織	堤 里奈	(数学科)	児島 瑠衣	上野加緒里	南 杏奈
吉富 諒	長井明日香	板山 航太	平田 悠将	上村 千香	矢野百合子
江崎 有沙	中尾 昂平	井上 傑	三原 吉雄	尾道 菜緒	吉福加奈子
嘉手刈陽子	中村明日香	窪田 弘毅	(技術科)	川瀬ともみ	
長野 類	西 宏美	中野 亮人	安達 浩大	特別支援教育コース	
山野かおり	西村 亮	高橋 采花	小野 美緒	荒木 佑太	前田真理子
高橋 愛	本多 千鶴	奈良 季帆	阪中 暁子	池田 有紗	松岡 大夢
仲地 芽	丸田 葵	松尾慎太郎	村上 雄也	池田 有紗	松岡 大夢
平野 貴久	溝手浩太郎	村田 大輔	湯地 雅一	池木ひかり	光岡 咲希
和田 鈴里	元吉奈那子	(理科)	吉村 天心	上原 和子	森 健太
沖野 螢	山下なのは	(家庭科)	(家庭科)	小川理沙子	山下 実咲
加藤 菜穂	油布真由美	久保田真未	坂本 優	小田 愛子	
川路 連理	吉村 直人	寺園 康秀	城下 実希	五反田明日実	
菊水紗也花		富浜 広貴	谷口 由夏	下地 結衣	
		土師 雄大	本村 菜摘	本多 礼佳	
		平井 祥子	(英語科)	本田 笑子	
(国語科)	岡本 悠暉	三島沙也香	加藤さくら		

平成28年度 総会報告

日時 平成28年6月26日(日) 11時～14時

場所 長崎市立桜町小学校内(地域・学校交流センター)

出席者 顧問・参与・理事・監事・幹事・地区委員

会員 4659名

出席者 3041名

委任状 2978名

第1号議案 (27年度の事業報告・決算の報告)

①事業報告

●平成27年度4月 新入生・終身会員への入会案内発送

●会報の発行(年2回)

主題「学校・家庭・地域が一体となつて取り組む教育」

・会報135号(13ページ) 8600部

・会報136号(13ページ) 8400部

●教育学部への支援(教育公務員採用受験者への指導助言・模擬授業・面接試験の受け方指導・卒業生への玉園同窓会賞の授与・科学、美術、音楽活動への支援)

●長崎大学全学同窓会への参加(本会員40名参加)終了後本会委員のみで懇親会を開催(於 浦上ひぐち)

●図書購入費助成事業(1校につき10万円前後)実績「小学校5校 高校1校」

第2号議案 (28年度の事業計画・予算案の審議)

①事業計画

・会報の発行 137号 138号

・玉園同窓会地区懇話会の開催 長崎市北部地区(期日及び場所は未定)年1回 28年度で11回目

・教育学部への支援

・長崎大学全学同窓会との連携強化

・図書購入費助成事業

②予算案 次ページに掲載

第3号議案 (役員改選について)

任期満了に伴い大幅に改選(定款・細則による)

お名前などについては、会報137号の「役員紹介」欄に掲載

平成27年度 収支計算書 (平成27年4月1日から平成28年3月31日) (単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
1. 収入の部				
(1) 入会金収入	420,000	387,000	33,000	3,000円×129名
(2) 会費収入	2,780,000	2,498,000	282,000	{ 1,000円×2,428名 5,000円×14名
(3) 雑収入	100	65	35	
(4) 繰入金収入	2,000,000	2,700,000	△700,000	基金会計より繰入
当期収入合計(A)	5,200,100	5,585,065	△384,965	
前期繰越収支差額	349,622	349,622	0	
収入合計(B)	5,549,722	5,934,687	△384,965	
2. 支出の部				
(1) 事業費	2,920,000	2,720,767	199,233	会議費・会報発行費など
(2) 管理費	2,609,722	2,553,230	56,492	借料・光熱水費など
(3) 固定資産取得購入支出	0	156,276	△156,276	
(4) 繰入金支出	20,000	20,000	0	退職積立金特別会計
当期支出合計(C)	5,549,722	5,450,273	99,449	
当期収支差額(A)-(C)	349,622	134,792	484,414	
次期繰越収支差額(B)-(C)	0	484,414	484,414	

平成28年度 一般会計収支予算書 (平成28年4月1日から平成29年3月31日) (単位:円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
1. 収入の部				
(1) 入会金収入	420,000	420,000	0	3,000円×200人×0.7
(2) 会費収入	2,680,000	2,780,000	△100,000	1,000円×3,000人×0.9 5,000円×20人×0.8
(3) 雑収入	100	100	0	
(4) 繰入金収入	2,300,000	2,000,000	300,000	基金会計より繰入
当期収入合計(A)	5,400,100	5,200,100	200,000	
前期繰越収支差額	484,414	349,622	134,792	
収入合計(B)	5,884,514	5,549,722	334,792	
2. 支出の部				
(1) 事業費	3,030,000	2,920,000	110,000	新規公益事業関係含
(2) 管理費	2,834,514	2,609,722	224,792	借料・光熱費など
(3) 固定資産取得購入支出	0	0	0	
(4) 繰入金支出	20,000	20,000	0	退職積立金特別会計
当期支出合計(C)	5,884,514	5,549,722	334,792	
当期収支差額(A)-(C)	△484,414	349,622	134,792	
次期繰越収支差額(B)-(C)	0	0	0	

役員紹介

—平成28年度—

敬称略

(顧問)

藤木 卓(長崎大学教育学部長)

小田 恒治(長崎県教育会理事長)

(参与)

峰 信子(OB・S19)

小西 峰一(OB・S28)

宮地 計(OB・S30)

(法人理事)

(会長理事)山崎 滋夫(OB・S37)

(副会長理事)峰松 終止(OB・S42)

(理事)中嶋 将晴(青雲高校長)

〃 村上 光子(OB・S37)

〃 木村 晃一(OB・S35)

〃 小川 大天(OB・S35)

〃 森 浩司(附属中校長)

〃 野田 和宏(OB・S43)

〃 内野 成美(教育学部教授)

〃 西平 千治(OB・S39)

〃 中川 幸久(OB・S48)

〃 松尾 克久(長与南小校長)

(事務局長)濱崎嘉一郎(OB・S39)

(監事) 島崎 賢一・縣 恒則

有川 政秀

(幹事) 原 慈子・野中 元則

尾崎 俊輔・安部 和隆

迎 憲二・上野 國博

(地区長)

長崎地区 青嶋 秋男(鳴見台小校長)

佐世保地区 溝口 辰夫(OB・S49)

大村地区 坂元 利彦(OB・S48)

諫早地区 森 和弘(上山小校長)

島原地区 吉田 功造(第五小校長)

雲仙地区 駒田 義弘(神代小校長)

南島原地区 柴田 義昭(口之津小校長)

平戸地区 入口 政信(平戸市教委)

松浦地区 田島 豊広(今福小校長)

五島南松地区 笹山 義徳(崎山小校長)

東彼地区 口木 政弘(彼杵中校長)

西海西彼地区 佐藤 雄一(時津小校長)

北松地区 橋本 淳(小値賀小校長)

壱岐地区 豊坂 敏博(芦辺中校長)

対馬地区 杉本美津廣(OB・S49)

国立小・中・特別支援学校

富野 聡(附属小校長)

高等学校支部 玉島 健二(OB・S52)

(地区委員)

長崎地区 菅藤 大三・赤瀬 明子

藤田 克祐・森下 秀男

金森 徹也

蒲川 法子・前田 英穂

中島 玲子・渡邊 洋子

久富 和幸・大隈 智

仲 重利・池田 英俊

倉田 登勝・野口 浩介

山津 和則・垣内 富勝

有田 洋史

山口 喜典

大村地区 溝上 涼子

諫早地区 澤村 信司

島原地区 森本 和孝

雲仙地区 杉 武侯

南島原地区 山田 芳弘

平戸地区 松永 勤

松浦地区 中村貴代美

五島南松地区 岡村 珠樹

東彼地区 藤原 正

西海西彼地区 郷野 和代

北松地区 松瀬 大高

壱岐地区 内山 圭三

対馬地区 薦田万洲生

国立小・中・特別支援学校

山田 喜彦・山田 勝大

高等学校 中村 敦・菊川 洋二

峯 信幸

一事一務一局一より

地区懇話会「長崎地区・北部」で開催

本年度は長崎地区・北部で開催する

ことになりました。

期日・場所等につきましては、後日、

お知らせいたします。

会員の皆様、御出席方よろしくお願

いします。

会費納入のお願い

今回も会費納入についてお願いいた

します。特にお願いしたいのは、一般

ホームページを開設しました

本同窓会は、一般社団法人として、その活動状況や、特に公益目的事業について会員の理解をはかることはもとより、それ以外のより多くの人々に知っていただくことが必要になってまいりました。こうしたことから、このたび理事会・総会の議決を得てホームページを開設いたしました。

今後の本同窓会の運営にあたって、大いに活かし新たな同窓会活動をめざしてまいりたいと思いますので皆様のご活用をお願いいたします。

ホームページアドレス

<https://www.edu.nagasaki-u.ac.jp/ja/tamazono/>

メールアドレス nu-tamazono@mx.b.cncm.ne.jp

会員の方で、長崎県公立・県立・私立学校に勤務している会員以外の、県内・県外在住の方々への納入が滞っている現状です。活動資金困窮の現状を理解いただき、会費の納入を是非お願いいたします。

(1) 会費 一人年額 1,000円

(2) 納入期限 本年11月末日

尚、会費を2年間滞納した場合は、

会員名簿から削除されますので、ご承

知おきください。(会報「たまぞの」

131号参照)